

K

「楓の風」らしい看護の取り組みを発信



在宅療養支援

楓の風

KAEDE TIMES 2026

在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤



ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介します、ニュースレターをはじめました！



Case 13

Vol.13

若年性でのがんの療養では、**治療を続けることと、家族との日常をどう両立するか**が大きな課題になります。今回ご紹介するのは、3人のお子さんを育てながら「できる治療を続け、少しでも長く生きたい」と希望された30代女性の事例です。

複数の医療機関と在宅チームが連携し、治療を諦めない思いに寄り添いながら、妻として、娘として、母親として精一杯人生を過ごされた方を支援させていただきました。

ケース

治療を続けながら、3人のお子さんとの生活を大切にされた方の支援

30代後半、胃がん。夫と10歳、5歳、0歳のお子さんとの5人暮らしでした。

「**できる治療を継続して、少しでも長く生きたい。子どもの成長を見守りたい**」という希望があり、保険診療と自由診療を組み合わせ、抗がん剤治療を継続。在宅でも中心静脈栄養が必要となり、治療を継続しながら自宅でご家族と生活するための支援として、**訪問看護**が導入されました。

訪問看護の内容

介入当初はADLが自立しており、病状観察、療養相談、CVポートと中心静脈栄養の管理を中心に支援しました。病状の進行に合わせ、NGチューブ、ストマ、CADDポンプによる疼痛管理、腹水穿刺後の対応などへ支援内容を調整しました。

同時に、**乳児を抱けるようCVポートやストマの固定方法を工夫し、家族旅行やお子さんの学校行事への参加も支援**。

複数の病院、訪問診療と状態や本人の意向を共有し、**病院での治療と在宅生活が途切れないうよう連携**を続けました。

その後の経過と気づき

その後、抗がん剤治療を継続され、その後も訪問診療と連携しながら支援を続けました。

最期はご家族に見守られながら自宅でのお看取りとなり、エンゼルケアもご家族と一緒に行いました。

印象に残っているのは、**看護師と二人になった際に**話された、「**子どもの風邪をもれなくもらってしまう夫が心配**」という言葉です。

お看取りの際、この言葉をご主人へお伝えすることができたことは、**奥様にご主人様に直接お伝えできなかったお気持ち**を少しお伝えできたように感じられました。

生活と病気の両方を身近で支えられる立場だからこそ、小さなエピソードでもすくい上げ、伝えていくことは、訪問看護師としての一つの役割かもしれません。